

体力向上へ向けた取組

- 保健体育授業の改善・充実へ向けた取組の方向性
- 保健体育授業以外の組織的な取組の充実に向けた方向性
- 子どもたちが成長を感じられるような取組の方向性

新体力テストの結果から見えた、本校の体力向上にかかわる課題への改善を目指し、本校で行っている授業の工夫と、授業以外での工夫、今後の取組について以下の通り整理した。

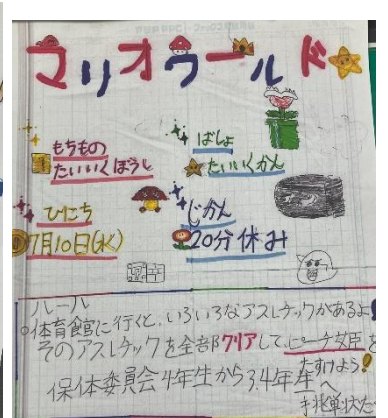
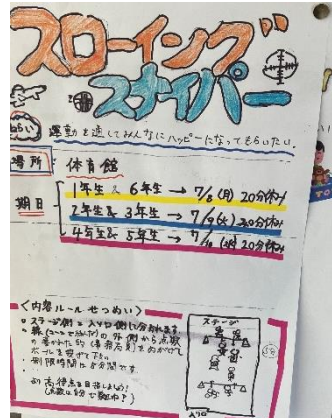
【本校で行っている授業の工夫】

- (1) 授業の導入場面における、基礎体力の向上につながる運動機会の設定。
→縄跳びトライ、サーキットトレーニング、(リズムジャンプトレーニング)。
- (2) 「終末」場面における課題解決へ向けたICTの効果的・効率的な活用
- (3) 外部人材(中学校の先生、PTA、出前授業)による体育授業のサポート
→①帯広市体力推進事業による「走り方教室」(2・3年生)「サッカー教室」(1・4年生)
②翔陽中学校の教諭による**エリア連携授業**(5・6年生)
③エスポラーダ北海道によるサッカー授業(2年生)
④おびひろスクールコロポ「**レバンガ北海道によるバスケットクリニック**」(4~6年)
⑤PTA学習サポーター(鉄棒サポーター、体力測定サポーター)



【本校が日常的に行っている授業以外の工夫】

- (1) 児童会と連携した運動機会の設定
→スローイング企画。障害物を乗り越える運動企画。
- (2) 休み時間における遊びや道具環境の整備
→大谷グローブの使用、サッカーコートでの整備。
→体力向上日を設定し、ボールを使ったり、バドミントンをしたりなど、体育館割り当てを工夫し、多様な運動ができる場の設定。
- (3) 体力UP だよりによる出前授業や連携授業の内容の全体への還元



【子どもたちが成長を感じられるような取組】

- (1) 体力測定日の前日までに、昨年度の結果を単票にし、個人配付。
- (2) ICT を活用した振り返りや動画の確認によるコツの視覚化。